

2026年5月15日

報道関係各位

株式会社OKB総研

新入社員の価値観 ～1997年度と比べてどう変わった？～

OKBグループのシンクタンク(株)OKB総研(岐阜県大垣市郭町2-25 社長 小川真二)は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。当社では、OKB総研主催の新入社員研修会の受講者を対象に、「新入社員の意識調査」を毎年実施しています。

今回はトピックスとして、1997年度に実施したものと同一の項目について調査しました。

〈調査結果のポイント〉

- **地元就職の理由は1997年度と同じく「生活・通勤するのに便利だから」が7割を占める**
男女ともに「生活・通勤するのに便利だから」が最も高く、次いで「住み慣れた土地だから」となった。1997年度と比較すると、男性では「住み慣れた土地だから」が上昇している。女性では「住み慣れた土地だから」、「故郷が好きだから」が上昇している一方、「家族が希望したから」が低下している。
- **同僚との人間関係は「仲間外れにならない程度」が多数派に**
1997年度と比較すると、男女とも「公私にわたって積極的に」が低下し、「仲間外れにならない程度」が上昇した。2026年度は男性では「公私にわたって積極的に」と「仲間外れにならない程度」がほぼ拮抗している。一方、女性では「仲間外れにならない程度」が「公私にわたって積極的に」を上回っている。
- **女性の結婚や出産を機とした退職意向が低下**
入社する会社の勤続について、男女ともに「定年まで」が最も高くなった。1997年度と比較すると、女性における「定年まで」および「いやになるまで」の上昇幅が大きく、「結婚するまで」「出産するまで」「結婚・出産が一段落した後再び働く」を合わせた割合の低下幅が大きい。
- **2026年度も「仕事と余暇の両立」を重視**
1997年度・2026年度ともに「仕事と余暇の両立」が最も高い。女性では『仕事重視』が低下した一方、『余暇重視』が上昇しており、両者の差が拡大している。
- **「希望の仕事につけるよう勉強」と「積極的に挑戦」が上位で変わらず**
希望の仕事につけなかった場合について、1997年度・2026年度は男女ともに「与えられた仕事をこなしつつ社内で希望の仕事につけるよう勉強する」と「与えられた仕事を積極的に挑戦する」が上位を占めた。
- **当面の処世観は「皆と仲良くし、人間関係を第一に行動」が1位で1997年度と変わらず**
男女ともに「皆と仲良くし、人間関係を第一に行動している」が最も高く、1997年度と変わらなかった。2位は男性が「社会の一員としての自覚と責任をもって行動している」、女性が「自分の好きなことをしているが、他人の目も気になる」となった。
- **最も興味を持っているものは、男性は上位2位が1997年度と変わらず。
女性は1997年度とちがいがみられる**
男性では「スポーツ」、女性では「推し・推し活」がそれぞれ1位となった。1997年度と比較すると、男性では「スポーツ」「車」が上位2位で同じとなっている。一方、女性では上位の項目が1997年度と2026年度でほぼ異なっている。

※調査結果詳細については次頁以降をご参照下さい。

資料配布場所：大垣市政経済記者クラブ、名古屋証券取引所・金融記者クラブ

【本件に関するお問い合わせ先：(株)OKB総研 調査部 梅木 風香 Tel.0584-74-2615】

調査の概要

	1997年度	2026年度
調査対象	岐阜県・愛知県等の企業・団体の新入社員	岐阜県・愛知県等の企業・団体の新入社員
調査期間	1997年3月24日～4月16日	2026年3月27日～4月8日
調査方法	大垣共立銀行主催の新入社員研修の受講者に無記名式で実施	O K B 総研主催の新入社員研修会の受講者に無記名式で実施
回答方式	紙媒体	WEB
回答者属性	下表の通り	

		1997年度	2026年度
有効回答者数		1,074名	369名
平均年齢		20.8歳	21.5歳
最終学歴	高校卒業	40.8%	29.8%
	専門学校卒業	13.5%	11.1%
	短期大学卒業	17.8%	4.9%
	4年制大学卒業	24.0%	48.0%
	その他	3.9%	6.2%
居住地	岐阜県	60.8%	56.1%
	愛知県	33.1%	33.9%
	三重県	2.0%	1.4%
	滋賀県	2.2%	3.3%
	その他	1.8%	5.4%
業種	製造業	36.0%	31.7%
	建設業	11.0%	15.2%
	卸売・小売業	20.3%	12.2%
	サービス業	20.3%	7.9%
	その他	12.4%	33.0%

(注1) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある(以下同じ)。

(注2) 両年度で質問文や選択肢、調査手法等が異なるため、データは単純には比較できない(以下同じ)。

(1) 地元就職の理由

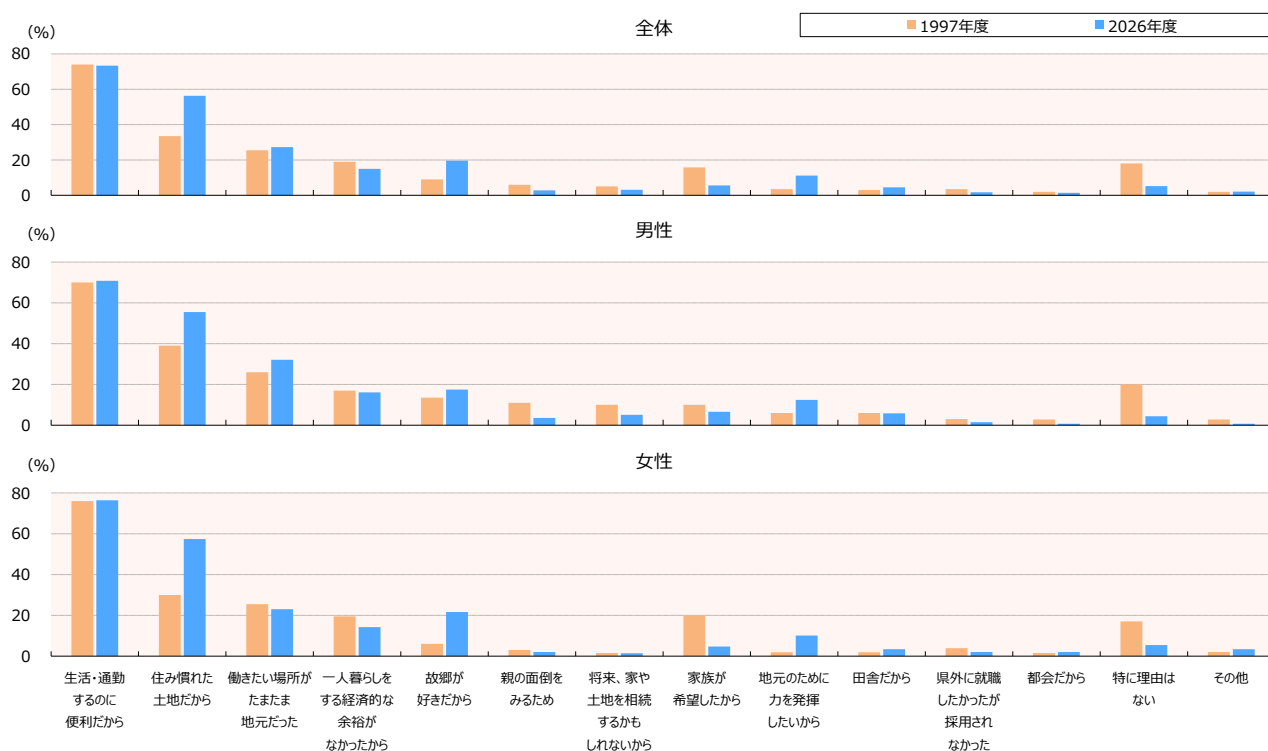
…1997年度と同じく「生活・通勤するのに便利だから」が7割を占める

地元（県内）就職と答えた人に対し理由を尋ねたところ、2026年度は「生活・通勤するのに便利だから」が73.4%で最も高く、次いで「住み慣れた土地だから」が56.3%となった。29年前の1997年度調査でも「生活・通勤するのに便利だから」が1位となっており、同じく7割を占めている。

男女別に見ると、男女ともに「生活・通勤するのに便利だから」（70.8%、76.4%）が最も高く、次いで「住み慣れた土地だから」（55.5%、57.4%）となった。

1997年度と比較すると、男性では「住み慣れた土地だから」が10ポイント以上上昇している。女性では「住み慣れた土地だから」が20ポイント以上、「故郷が好きだから」が10ポイント以上上昇している一方、「家族が希望したから」が10ポイント以上低下している（図表1）。

図表1 地元に就職した理由（3つまで回答）



(注) 1997年度は「県内就職の理由」を尋ねており、「働きたい場所がたまたま地元だった」は「働きたい場所がたまたま県内だった」となっている。

(2) 同僚との人間関係

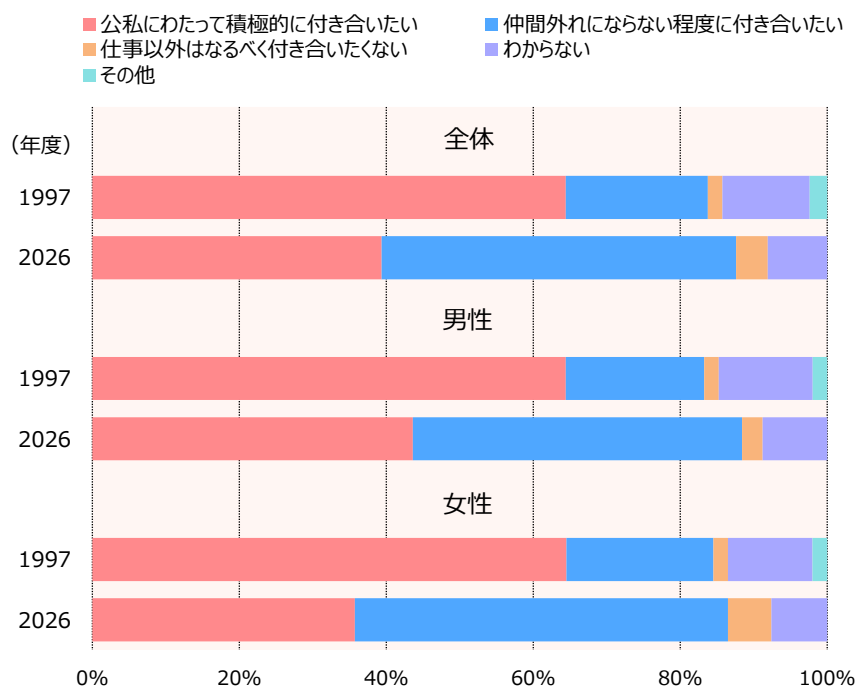
…「仲間外れにならない程度」が多数派に

同僚との人間関係について尋ねたところ、2026年度は「仲間外れにならない程度に付き合いたい」が48.2%で最も高く、次いで「公私にわたって積極的に付き合いたい」が39.3%となった。1997年度は「公私にわたって積極的に付き合いたい」が6割を占め、「仲間外れにならない程度に付き合いたい」は2割ほどであったが、両者の順位が逆転した。

男女別に見ると、2026年度は男性では「公私にわたって積極的に付き合いたい」が43.6%、「仲間外れにならない程度に付き合いたい」が44.8%と、両者はほぼ拮抗している。一方、女性では「公私にわたって積極的に付き合いたい」が35.7%、「仲間外れにならない程度に付き合いたい」が50.8%と、後者が前者を上回っている。

1997年度と比較すると、男女とも「公私にわたって積極的に付き合いたい」が低下し、「仲間外れにならない程度に付き合いたい」が上昇している（図表2）。

図表2 同僚との人間関係



(注) 2026年度は「その他」を選択肢から削除。

(3) 勤続年数

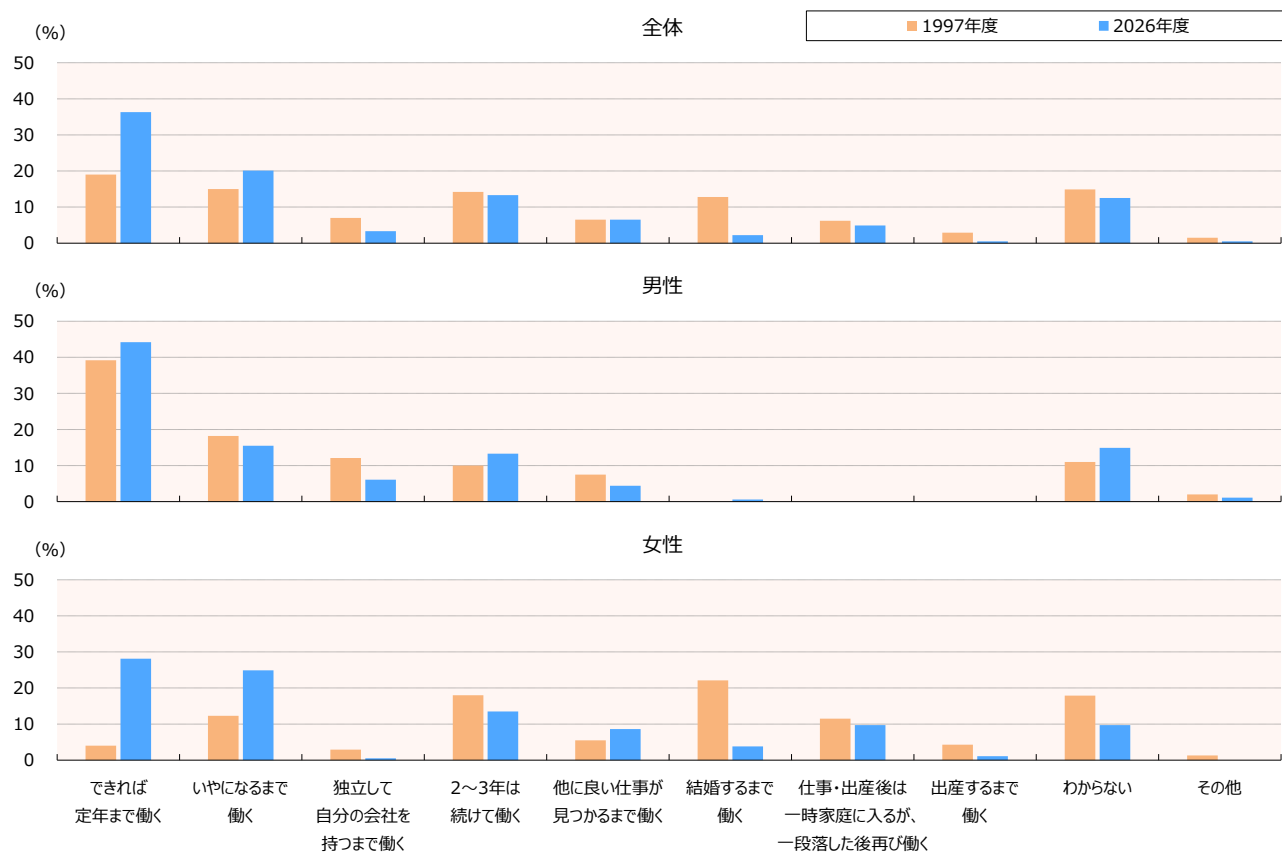
…女性の結婚や出産を機とした退職意向が低下

入社する会社の勤続について尋ねたところ、2026年度は「できれば定年まで働く」が36.3%で最も高く、次いで「いやになるまで働く」が20.1%となった。

男女ともに「できれば定年まで働く」(44.2%、28.1%)が最も高く、男性は女性を16.1ポイント上回っている。また、女性では次いで「いやになるまで働く」が24.9%となっており、上位2項目で同程度の回答率となっている。

1997年度と比較すると、特に女性における「定年まで働く」および「いやになるまで働く」の上昇幅が大きく、「結婚するまで働く」の低下幅が大きい。また、「結婚するまで働く」「出産するまで働く」「結婚・出産後は一時家庭に入るが、一段落した後再び働く」を合わせた割合は、1997年度は38.4%であったのに対し、2026年度は14.6%と、20ポイント以上低くなっている(図表3)。

図表3 入社する会社の勤続



(4) 仕事重視それとも余暇重視

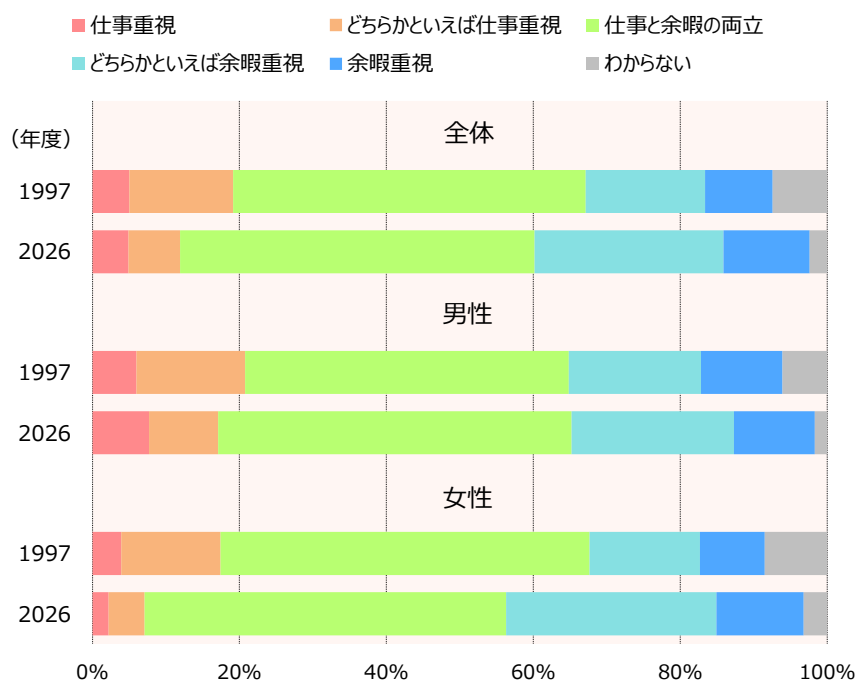
…2026 年度も「仕事と余暇の両立」を重視

仕事と余暇のどちらを重視するか尋ねたところ、2026 年度は「仕事と余暇の両立」が 48.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば余暇重視」が 25.7%となった。

1997 年度も「仕事と余暇の両立」が最も高く、次いで「どちらかといえば余暇重視」となっている。ただし、2026 年度は 1997 年度と比べて、「仕事重視」と「どちらかといえば仕事重視」を合わせた割合（以下、『仕事重視』）は低下し、「余暇重視」と「どちらかといえば余暇重視」を合わせた割合（以下、『余暇重視』）は上昇している。

男女別に見ると、1997 年度・2026 年度ともに「仕事と余暇の両立」が最も高い。女性に関しては、『仕事重視』が低下した一方、『余暇重視』が上昇しており、両者の差が拡大している（図表 4）。

図表 4 仕事と余暇のどちらを重視しますか



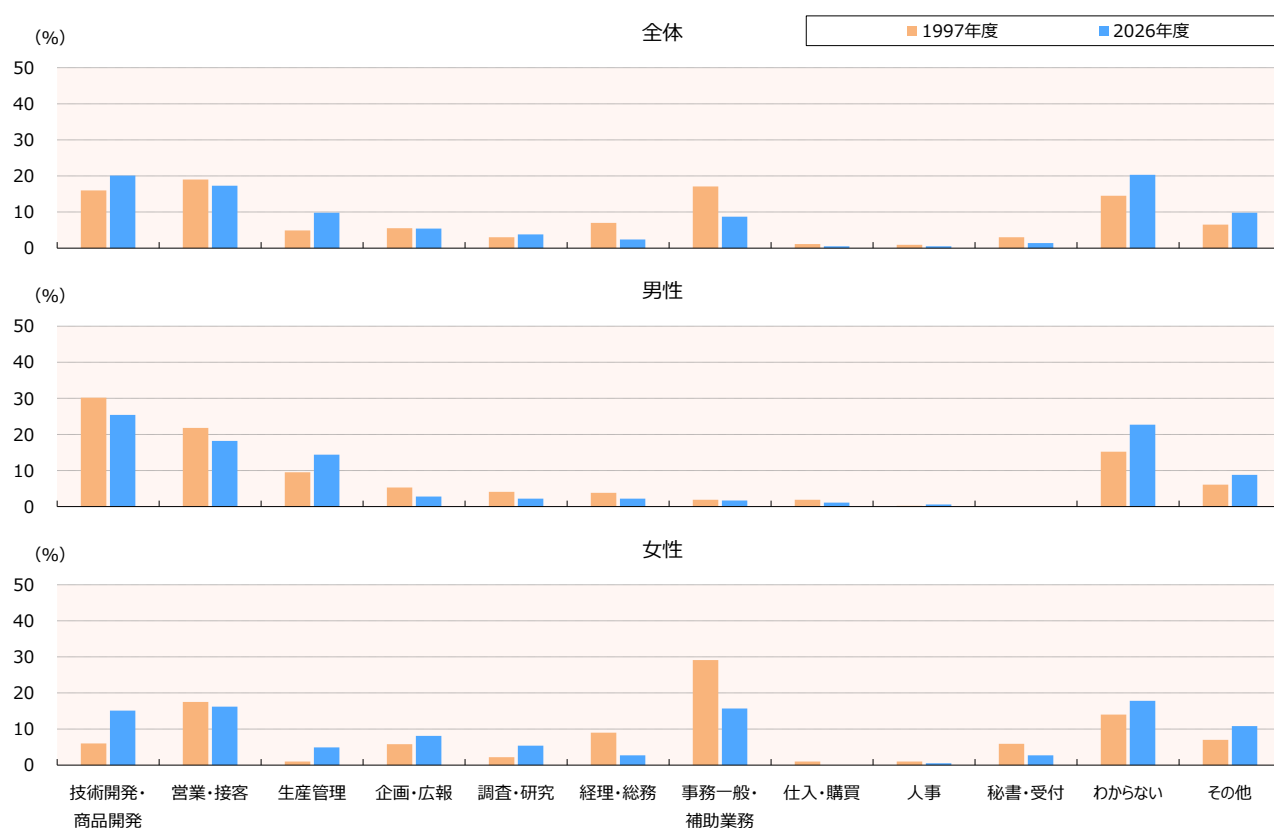
(5) 希望する仕事

…2026年度は男性では「技術開発・商品開発」、女性では「わからない」が1位

希望する仕事を尋ねたところ、1997年度は男性が「技術開発・商品開発」が30.2%で最も高く、次いで「営業・接客」が21.8%だった。女性は「事務一般・補助業務」が29.1%で最も高く、次いで「営業・接客」が17.5%だった。

それに対し、2026年度は男性が「技術開発・商品開発」が25.4%で最も高く、次いで「わからない」が22.7%となっている。女性は「わからない」が17.8%で最も高く、次いで「営業・接客」が16.2%となっている。特に女性において「事務一般・補助業務」が1997年度に比べて10ポイント以上低下した（図表5）。

図表5 どんな仕事を希望していますか



(6) 希望の仕事につけなかった場合

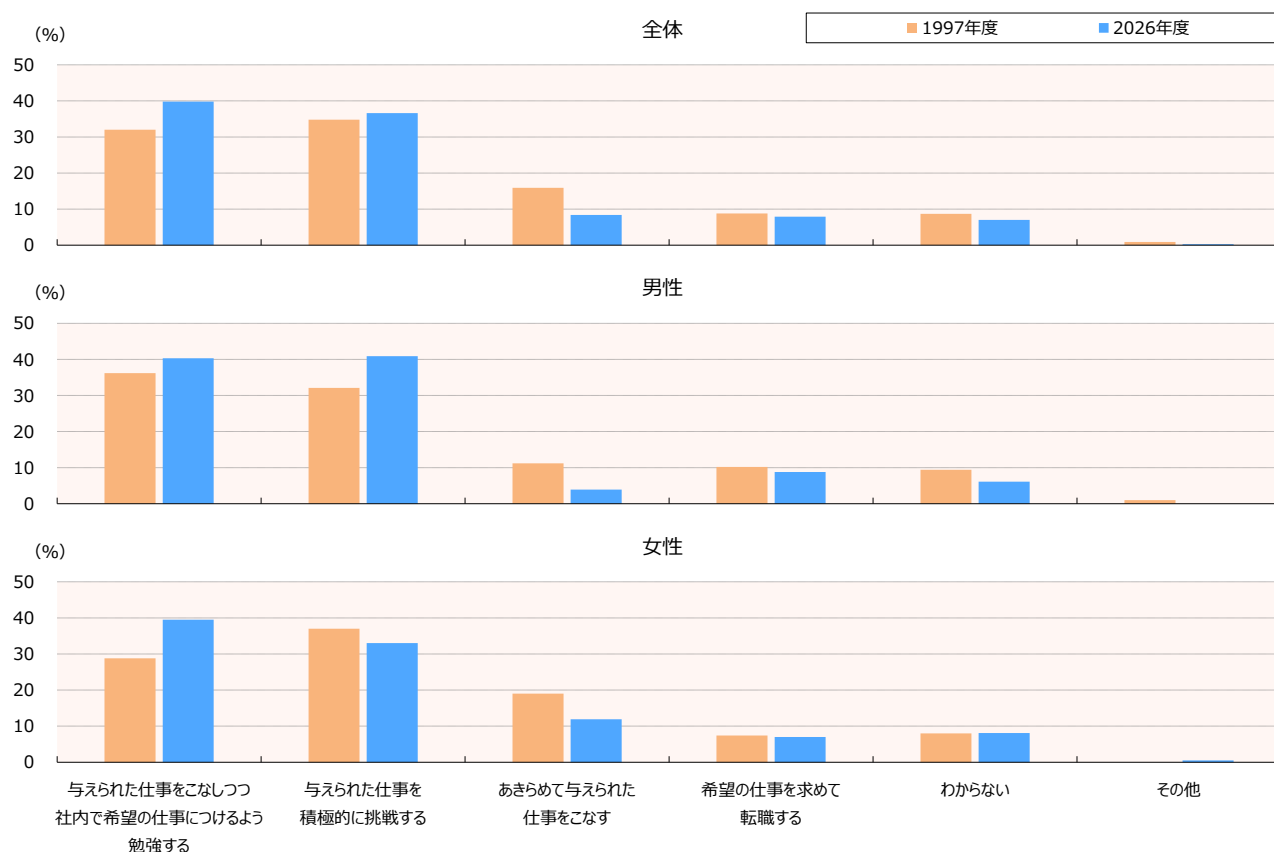
…「希望の仕事につけるよう勉強」と「積極的に挑戦」が上位で変わらず

希望の仕事につけなかった場合について尋ねたところ、2026年度は「与えられた仕事をこなしつつ社内で希望の仕事につけるよう勉強する」が39.8%で最も高く、次いで「与えられた仕事を積極的に挑戦する」が36.6%となった。1997年度においてもこれらが上位を占めている。

男女別に見ると、2026年度は男女ともに「与えられた仕事をこなしつつ社内で希望の仕事につけるよう勉強する」(40.3%、39.5%)と「与えられた仕事を積極的に挑戦する」(40.9%、33.0%)が上位を占めた。「希望の仕事求めて転職する」に関しては、男性は8.8%、女性は7.0%にとどまっている。

1997年度と比較すると、女性の「与えられた仕事をこなしつつ社内で希望の仕事につけるよう勉強する」が10ポイント以上高くなっている(図表6)。

図表6 希望の仕事につけなかった場合どうしますか



(7) 貯蓄

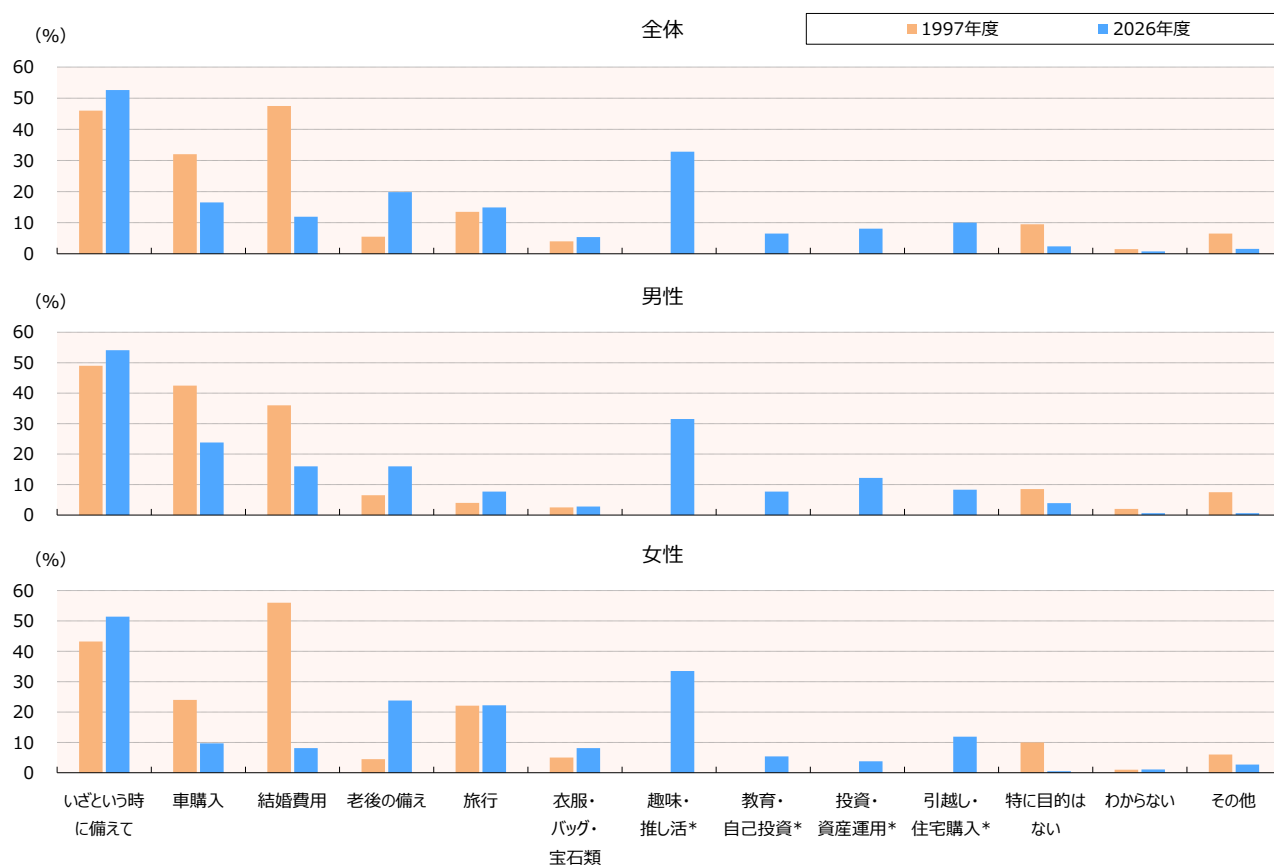
…2026年度は「趣味・推し活」が2位に

貯蓄の目的について尋ねたところ、2026年度は「いざという時に備えて」が52.6%で最も高く、次いで新たに追加した「趣味・推し活」が32.8%となった。

男女別に見ると、男女ともに「いざという時に備えて」(54.1%、51.4%)が最も高く、次いで「趣味・推し活」(31.5%、33.5%)となった。一方、「車購入」は男性(23.8%)が女性(9.7%)を14.1ポイント上回っており、「旅行」は女性(22.2%)が男性(7.7%)を14.5ポイント上回っている。

1997年度と比較すると、「結婚費用」や「車購入」が男女ともに低下しており、特に女性では40ポイント以上の大幅な低下となっている。一方、「老後の備え」については男女ともに上昇しており、特に女性において上昇幅が大きくなっている(図表7)。

図表7 貯蓄目的(2つまで回答)



(注) *は2026年度に追加した選択肢。

(8) 当面の処世観

…「皆と仲良くし、人間関係を第一に行動」が1位で 1997 年度と変わらず

当面の処世観について尋ねたところ、2026 年度は「皆と仲良くし、人間関係を第一に行動している」が 53.4%で最も高く、次いで「社会の一員としての自覚と責任をもって行動している」が 22.5%となった。1 位は 1997 年度と変わらなかった。

男女別に見ると、男女ともに「皆と仲良くし、人間関係を第一に行動している」が最も高くなった。2 位は男性が「社会の一員としての自覚と責任をもって行動している」(26.0%)、女性が「自分の好きなことをしているが、他人の目も気になる」(23.2%) となった。

1997 年度と比較すると、男性の「家族のつながりを大切にしている」(23.2%) が 10 ポイント以上高くなっている (図表 8)。

図表 8 当面の処世観 (複数回答)



(9) 現在最も興味を持っているもの

…男性は上位2位が1997年度と変わらず。女性は1997年度と差異がみられる

2026年度の新入社員が最も興味を持っているものは、男性では「スポーツ」、女性では「推し・推し活」がそれぞれ1位となった。2位以下を見ると、男性では「車」「お金・お金の管理・資産形成」、女性では「音楽」「お金・お金の管理・資産形成」となっている。

1997年度と比較すると、男性では「スポーツ」「車」が上位2位で同じとなっている。一方、女性では上位の項目が1997年度と2026年度でほぼ異なっている。

「パソコン」に関しては、男女ともに1997年度は3位以内であったが、2026年度は10位以下となっている（図表9）。

図表9 現在最も興味を持っているもの（上位10位）

2026年度

順位	男性	比率(%)	順位	女性	比率(%)
1	スポーツ	16.8	1	推し・推し活	11.6
2	車	7.8	2	音楽	11.0
2	お金・お金の管理・資産形成	7.8	3	お金・お金の管理・資産形成	8.3
4	ゲーム	5.6	4	旅行	7.2
5	旅行	3.9	5	ゲーム	5.0
6	音楽	3.4	6	スポーツ	3.9
6	仕事	3.4	6	美容	3.9
8	動画・配信	2.8	8	読書	3.3
9	筋トレ	2.2	9	車	2.8
9	資格取得	2.2	9	ファッション	2.8

1997年度

順位	男性	比率(%)	順位	女性	比率(%)
1	スポーツ	29.2	1	パソコン	16.3
2	車	23.1	2	スポーツ	15.8
3	パソコン	12.8	3	車	12.8
4	音楽	6.7	4	音楽	7.4
5	仕事	5.2	5	ファッション	4.1
6	ギャンブル	4.6	6	料理	3.3
7	釣り	2.7	7	カラオケ	3.0
8	資格取得	2.1	8	仕事	2.8
9	映画	1.2	8	旅行	2.8
9	女性	1.2	10	ゲーム	2.4

以上